

「作る楽しさが、誰かの喜びに」 to-no-teさんが紡ぐ陶芸の世界

寒 い冬も終わりに近付
き、暖かい春の気配
が感じられるようになつて
きましたね。今月号の「えー
る！」では、3月2日まで
渋川の子たぬきのパンギヤ
ラリーで陶器雑貨の個展を
開催していた、鹿野在住の
to-no-teさんをご紹介し
ます。

本名と「私の手」という
意味を込めてこの名前で活
動するto-no-teさんは、
友人がかの陶芸教室に参加
していることをきっかけに
平成28年から陶芸を始めま
した。

陶芸とは自分を表現する
方法のひとつだと考え、自
分が作りたいもの、やつて
みたいことを形にしている
……そう語るto-no-teさ
んは、お皿やカップ、オブ
ジェなど、さまざまな作品
を制作されています。

ふる里マルシェかのや、
KANOかくれがマルシェ
をはじめ、市内のマルシェ
イベントで作品を販売され
ています。イベントに立ち
寄ったときは、to-no-te

さんが参加されていないか
探してみてくださいね。
to-no-teさんに、陶芸
に向き合う思いを問うと、
それは「自分が楽しんで作
る」とことなのだと語ります。
「自分が楽しんで作るから
こそ、誰かに届くものだと
思います。私の手で作った
ものを、誰かが気に入ってくれることに、嬉しさを感
じます」

まずは自分が楽しむこと
の感謝を語っていただいた
を忘れず、陶芸に向き合う。
その思いがあるからこそ

陶芸への思いと、周囲へ
の感謝を語っていただいた
to-no-teさんの活動に、
心からエールを送ります！





今の自分が作ったものをみてもらいたい……そんなテーマで開催された個展をうかがいました。

子たぬきのパンギャラリーでの個展は、今回が2回目になります。土壁と木でできたあたたかみのあるギャラリーには、to-no-te さんがディスプレイしたお皿やカップ、指輪、お雛様のオブジェなどが並べられています。

同じ土から生み出された陶器は、ギャラリーの雰囲気にもぴったりです！



会場に置かれたメッセージノートを見ると、「あったかい空間に感謝します」「かわいい」「とても素敵でした！」「やっと直接作品を見て触れることができました」「1点1点からあたたかみと愛情が伝わってきます」

……と、たくさんの感想が並んでいました。

個展を訪れた皆さん、to-no-te さんの作品と雰囲気をとても楽しんでいることを感じました！

写真撮影をしながら、じっくりと作品を鑑賞しました。大量生産される製品にはない、手作りで、ひとつとして同じ形のない作品たち。定規で引いたような曲線ではなく、「人の手」が作り出した曲線だからこそ、見ていてあたたかい気持ちになるのだと感じます。

to-no-te さんは、4月以降も、周南地域の各地で出店を予定されています。その時々の作品から、to-no-te さんの思いを感じてみてくださいね。

to-no-te さんの活動は、Instagram でも確認することができます。

